

平成 26 年度松楠会支援事業

菊池寛に学ぶ演劇体験

六車 健（教育：昭和 52 年卒）

定年退職前に新しい取組に挑戦することができたのも、ひとえに松楠会支援事業のお陰です。私は、菊池寛の作品を小学生が演劇体験して地元で上演する活動により 10 万円の補助を受けました。

出し物は「蘭学事始」。オランダ語の医学書を翻訳した江戸時代の話で、“フルヘッヘンド” の話題は今も 6 年生の道徳で扱われています。菊池寛の原作によると、杉田玄白と前野良沢の目指す方向が異なり翻訳が行き詰まりかけた時、平賀源内が助け舟を出したというのです。

菊池寛自身も困った時に助け舟が現れたそうです。花園小学校 5 年生を対象とした演劇体験でもいくつかの助け舟がありました。

まず、台本は旧四番丁小学校の「菊池寛まつり」で上演されたものを基にすることができました。演劇指導では、アマチュア劇団主催者が校区にお住まいで、児童に直接教えていただく機会がありました。苦労したのが衣装探し。古着屋を数軒回った末に偶然、新聞広告で古着バーゲンセールを発見。七五三の着物などを買込み、いよいよ練習に拍車がかかりました。上演先は児童の希望を優先したところ、地元の高齢者施設 3 か所と幼稚園・保育所 3 か所が快く引き受けてくれました。高松市教育委員会が菊池寛の生き方に学ぶ「寛学（かんがく）」を重点活動に取り上げており、花園小学校の演劇体験も「ふるさと学習」として、夕方の TV ニュースで紹介されました。

演劇体験により児童が成長する様を目の当たりにし、私は退職後も地域の一員として子どもたちにかかわることができれば、と思った次第です。

